

平成30年度第2回学校業務改善アドバイザー研修会



本年度、モデル校として業務改善に取り組んでいる小松島高校で8月の第1回研修会に続き、第2回の研修会が開催されました。
徳島県立小松島高等学校 平成30年12月10日(月)

講師 文部科学省学校業務改善アドバイザー
兵庫県教育委員会教職員課 小川秀雄 氏

「働き方改革の目的は残業時間を減らすことではない」

第1回研修会后、小松島高校で取り組んできた業務改善について、意見交換を行いながら、今後の方策について、検討しました。

これまでの小松島高校の取組紹介

「できることからやってみる」というアドバイザーからの助言のもと、できることから取り組んできました。

- ・ 会議の1時間制限
- ・ 部活動方針の策定
- ・ 放課後活動の20時制限
- ・ 職員朝会のペーパーレス化
- ・ 業務負担に関するアンケートの実施
- ・ 行事の精選・業務の洗い出し
- ・ 学校閉庁日の実施
- ・ 職員室の環境整備
- ・ 留守番電話の設置



教員からの主な意見

- ・ 会議時間のよりに終わりの時間を決めるのは大切である。時間を意識して集中して仕事をするようになる。
- ・ 業務の平準化にもっと取り組んでいかなければいけない。
- ・ 自分がどれくらい残業しているかなどは考えたこともなかったが、自分の働き方を考える良い機会となっている。
- ・ 長期的に取り組むべきことと、喫緊に取り組むべきことを整理する必要がある。
- ・ 教師の本分は授業であるから、授業で勝負できる仕組みを将来的には作っていくべき。
- ・ 足並みをそろえることも大切だが、多様な働き方が尊重されることも大切ではないか。
- ・ 教員もいろいろな考えを持っているので、意思統一を図る場面をもっと設定するべき。

次年度に向けて、教職員の意見を集約し、行事等の精選に取り組んでいます。



協働の大切さを実感できるワークショップ

アドバイザーからの助言

- ・ 個人よりもチームで取り組むなど、協働体制の構築が大切である。自分の考え以上のことが出てくる。
- ・ 働き方改革は保護者や地域を巻き込んで行うもの。学校が行う業務であるかどうかを踏まえ、業務を整理していく必要がある。
- ・ 働き方改革の目的は残業時間を縮減することではなく、これからの学校戦略である。学校全体で組織として取り組んでいかなければいけない。

